

諮問内容

これからの産業教育の在り方

1 社会の変化に対応した産業教育について 2 教育環境の充実について

背景・課題

- Society5.0時代の到来により社会や産業構造が変化中、予測困難な時代を生き抜くための知識・技術と、生涯にわたって学び続ける態度が不可欠
- デジタルトランスフォーメーション、第4次産業革命を担うため、専門高校における高度職業人材の育成と確保が必要
 - ・従来の産業区分にとらわれない、異分野融合、新しい産業を志向することが必要
 - ・学校が育てたい人材像と、産業界・事業所が求める人材像の間には一定のギャップがある
 - ・人口減、専門高校への志願者減を踏まえ、アウトカム（人材像、出口としての進学、就職）の魅力化が必要
 - ・産業教育施設・設備の更新には多額の費用がかかるため、それらすべてに対応していくことは現実的に困難
 - ・これからの産業教育を考える上で、持続可能な仕組みと地域との協働は、必要不可欠な視点

専門高校 共通の視点と方向性

- ◆**教育の質保証、ニーズを踏まえた学習内容の充実**
学校にて学ぶべき基礎的な知識・技術に加え、課題解決能力、論理的思考力、想像力を養うとともに、産業界が求める最新の知識、技術にも触れる機会の創出
- ◆**キャリア教育の推進**
学校と地域企業が連携し、専門高校では、より効果の高い中長期のインターンシップの導入を検討。また、勤労観・職業観の育成としてアントレプレナー教育の実施
- ◆**多様な進路選択、進路保障**
専門高校を卒業後、大学等へ進学する者も増えており、就職、進学の両面をサポートできる体制づくりや、コース選択制の採用も視野に入れる。
- ◆**Society5.0社会への対応、他分野交流、教科横断的な取組の推進**
超スマート社会への対応。産業の複合化が進む中、学科の枠を超えた開講科目の乗り入れや、複数学校間の連携など、産業人材のニーズに幅広く対応できる教育の実施
- ◆**学校外の教育リソースの活用、大学や企業との連携**
地域の教育リソースを把握し、効果的に活用することが重要。特に、産業の専門家としての人的資源の活用と、大学や企業にある最新機器・機械の設備に触れる機会の創出
- ◆**中学校との連携、魅力の発信**
中学生が将来のキャリアパスや職業選択に向けて考えを深める機会を提供し、専門高校進学への橋渡しとなるような連携を実施
- ◆**優れた取組の創出**
マイスター・ハイスクール(文部科学省)、SSH(JST)、GAP認証(日本GAP協会)、STEM(STEAM)教育など、先進的で優れた教育の戦略的な創出

1 Society5.0社会に対応した人材育成について

- ☞ 目指すべき人材像、求められる人材像、AI、IoT、ビッグデータ等のICT活用能力の育成
 - ・変化の速いSociety5.0社会に対応するためには、基本となる部分をしっかり身につけることが重要。民間企業等で新しい技術に触れる機会や実習を設けながら、既存設備で可能な最適な学習を工夫する。
 - ・新しい技術の習得は、就職後のOJTが基本。技術者の卵となる人材を育てるには、情報活用能力や社会的なマナー、キャリア教育が重要。
 - ・滋賀県のこだわりある産業や企業と県産業全体と高校教育を結び付けながら、世の中に対してその価値を見出していくことが必要。

2 地域や産業界と連携した産業教育について

- ☞ 地域産業界や高等教育機関等との連携を組み込んだ計画的・系統的なキャリア教育の構築、長期インターンシップやデュアルシステムの導入、地域や産業界の教育資源の有効活用、専門学校および大学等との連携
 - ・これまで以上に地域や産業界との連携を進めるためには、学校とそれらのニーズのマッチングをコーディネートする部署や専門人材の配置が必要。
 - ・大企業のCSR活動と連携し、大型機械の買い替えや遊休設備等の提供を受けるために、県と各企業が包括協定を結び、情報共有していくことが必要。
 - ・高校生が学習の機会として参画できるようなプロジェクトやプランニングなどの取組を企業や産業界から創出していくような働きかけが必要。

3 産業教育の推進にかかる環境整備について

- ☞ 必要な資質能力を育むために必要な施設・設備、地域の産業界が保有する施設・設備等の共同活用、教員の人材育成、人材の確保
 - ・必要な機器の整備も重要だが、特に最先端の機器については、産業界に出て行って実習をさせてもらうなど、持続可能な仕組みを考えることが必要。
 - ・教員の人材不足について、将来、教員志望の生徒が増えるような取り組みと、特別免許状や特別社会人講師といった制度を活用するなど人材の確保が必要。
 - ・これからの新しい産業を教えるには、教える側にもより高いスキルが求められるため、新しい知識や技術を取り入れるためにも、民間企業や大学で研鑽を積む研修制度の充実が必要。

4 魅力を伝える方策について

- ☞ 学生や保護者、地域社会への情報発信方法
 - ・InstagramやTwitterといったSNSや動画配信などを利用し、時代に即した広報を展開。
 - ・OB・OG訪問など、卒業生が直接魅力を伝えるような機会を設ける。
 - ・中学校教員が産業教育を知るための研修や小学校から大学までの教員の相互交流の実施。
 - ・高校生によるプログラミング教室やロボコン開催など小中学校との連携強化。
 - ・県内に会場を設けて各専門高校が一堂に集まり、それぞれの魅力を伝える「専門高校フェスティバル」のようなイベントの開催。

5つの論点(議論のポイント)

★産業界の声(ヒアリング調査 令和3年3~4月)

- ☞ 産業界および専門高校を卒業し県内企業に就職した2~3年目の企業人(土木、建築、福祉、農業、商業、家庭等の各業界)に聞き取り(高校への希望や期待)を実施し、産業界の声として集約する。

5 各学科における学びの在り方について

- ☞ 上記の4点を実現するための、各学科(農業・工業・商業・家庭・福祉)が抱える課題を明確にし、それぞれの人材育成の在り方、学科の在り方を検討



- ◆**農業:**
 - 方向) 超省力、高品質生産、スマート農業への対応、GAP教育やHACCP教育の推進
 - 課題) 老朽化した施設・設備の更新、認証取得審査、更新等維持に係る費用
 - 連携) 法人農家との連携、インターンシップやプロジェクト学習を通じた企業との連携
- ◆**工業:**
 - 方向) デジタル社会に対応した最先端の知識や技術と、モノづくりの基礎的・基本的技術の習得
 - 課題) 高額な機械・機器の更新、指導者の育成と若手教員の指導力、技術力の向上、企業との関わり方
 - 連携) 大学、企業等と単位認定も視野に入れた長期的な連携、長期インターンシップの実施
- ◆**商業:**
 - 方向) クリエーター人材、アントレプレナー人材など新たな価値、アイデアを生み出す人材
 - 課題) 企業の最先端の技術やノウハウを身につけた指導者の育成、研修制度の充実
 - 連携) 地域を含めた行政、学校、大学、産業界が一体となった連携、地域づくり、まちづくり
- ◆**家庭・福祉:**
 - 方向) IoTやAIの技術を使いこなせる人材、多職種協働に必要なチームマネジメント力
 - 課題) 指導者の人材の確保、教員免許がなくとも専門的な指導ができる人材の登用制度
 - 連携) 地域や産業界、高等教育機関との連携を推進するコーディネーターの配置、教育資源バンク

★これまでの議論から答申案に含める内容のイメージ

- ◆ 基礎基本を大切に教育の実施、カリキュラム、授業内容の不断の見直し
- ◆ 最先端技術については、大学や企業と連携し、学外リソースを活かして、触れる機会・知る機会を提供できる体制の構築
- ◆ 連携にあたっては、地域の産官学(企業・行政・大学等)でコンソーシアムを形成し、地域のまちづくり・産業振興の中に産業教育を位置づける
- ◆ 産官学連携コーディネーター、専門部署の設置
- ◆ 産業界として必要な探究心、向上心、技術者倫理といったキャリア教育の充実
- ◆ 社会の実態や経済活動全体から見た産業高校間交流、コラボ・連携(同学科間、異学科間)と産業の複合化への対応
- ◆ 産業教育施設・設備、機器の充実、定期的な更新と企業や大学の設備、機器が利用できる体制の構築
- ◆ 現場のOJTを体験するための、中・長期インターンシップの導入
- ◆ 進学ニーズへの対応(進学クラス、進路指導)
- ◆ 高大接続、(小)中高接続の強化
- ◆ 教員の研修制度の充実(企業や大学研究機関研修)
- ◆ SNSを積極的に利用し、見せる・体験させる・身近に感じさせる広報の展開
- ◆ 小中学校の教員に産業教育、専門高校を知ってもらう仕組み

審議まとめ

第4回会議 令和3年6月16日

答申(素案)の策定

第5回会議 令和3年7月中下旬

7 答申(案)の提示

第1回会議 令和2年10月29日 学校見学会 令和2年11月27日

第2回会議 令和2年12月23日

第3回会議 令和3年5月24日

高等学校の学びと就職に関する卒業生調査結果について（概要）

- 目的 本調査は、滋賀県教育委員会が、これからの高校教育の在り方を検討するにあたって、高等学校における学びの現状を把握するとともに、今後の産業教育や人材育成を検討するための参考資料として活用することを目的とする。
- 調査対象 県立高等学校を平成30年3月以降に卒業した生徒のうち、県内の事業所に就職後、勤務年数が2年から3年経過した者
- 調査時期 令和3年3月25日から令和3年4月28日まで
- 調査方法 調査対象の人選は、県内関係団体に推薦依頼を行うこととする。
ヒアリング調査用紙の送付または、Web回答による記入式アンケートによる
- 調査項目 在籍時の学びを振り返り、今後の高校教育への期待や要望について
別紙、アンケート調査票のとおり
- 回答数等 調査依頼数 40人 回答数 35人 回答率 87.5%

I 回答者属性

(1)出身学科別

農業科	工業科	商業科	総合学科	普通科	通信部
11.4	20.0%	11.4%	31.4%	22.9%	2.9%

(2)卒業年度別

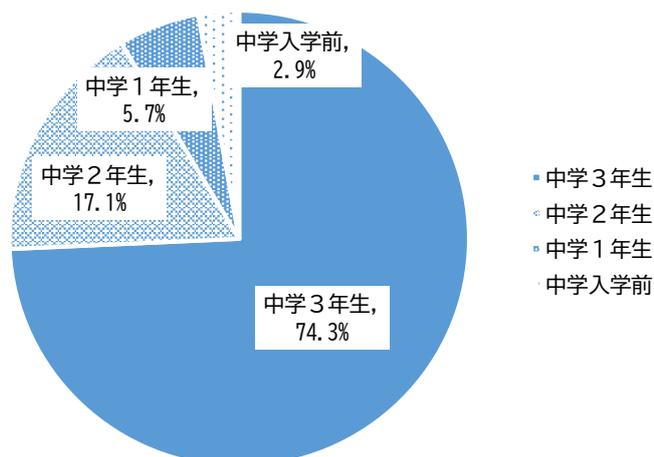
2015年3月卒	2016年3月卒	2018年3月卒	2019年3月卒	2020年3月卒
2.9%	2.9%	48.6%	25.7%	20.0%

(3)業種別

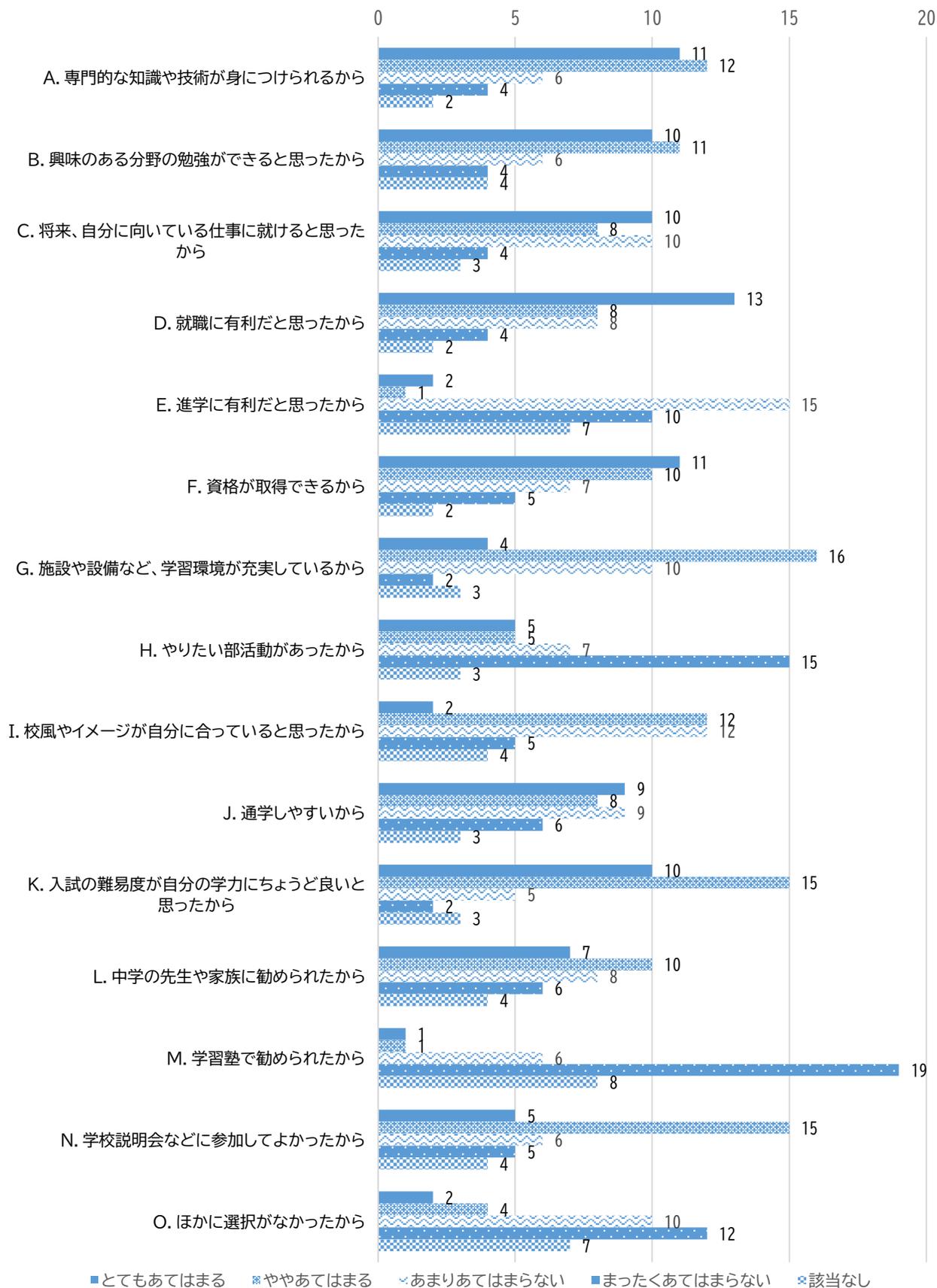
製造業	建設業	卸小売 飲食業	農林漁業	運輸通信 倉庫業	サービス業	福祉 (介護職)
21.9%	12.5%	18.8%	12.5%	18.8%	6.3%	9.4%

II 高等学校入学前のこと

問1 志望校を決めたのはいつですか



問2 あなたが志望校を決めた理由として、次のことがらはどれくらいあてはまりましたか。



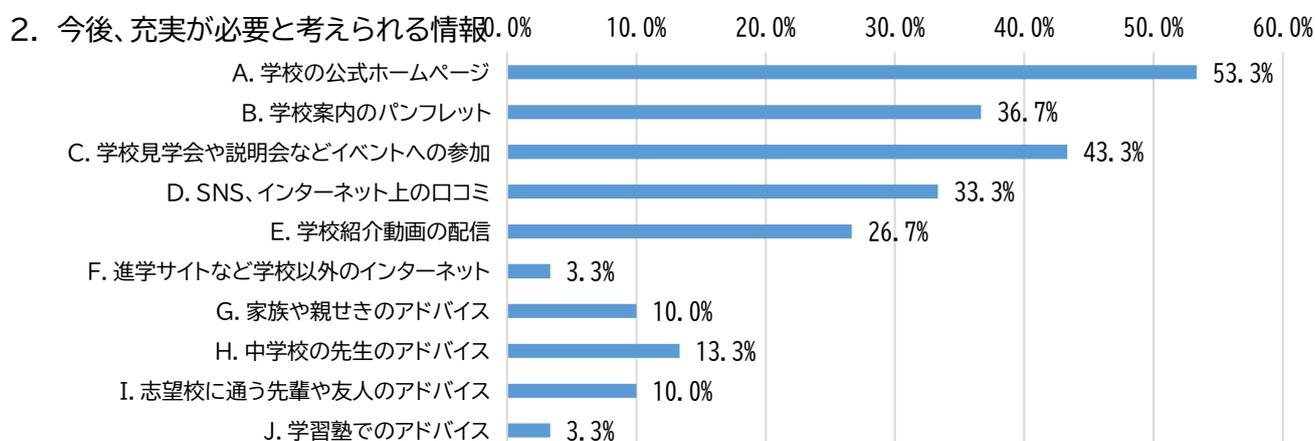
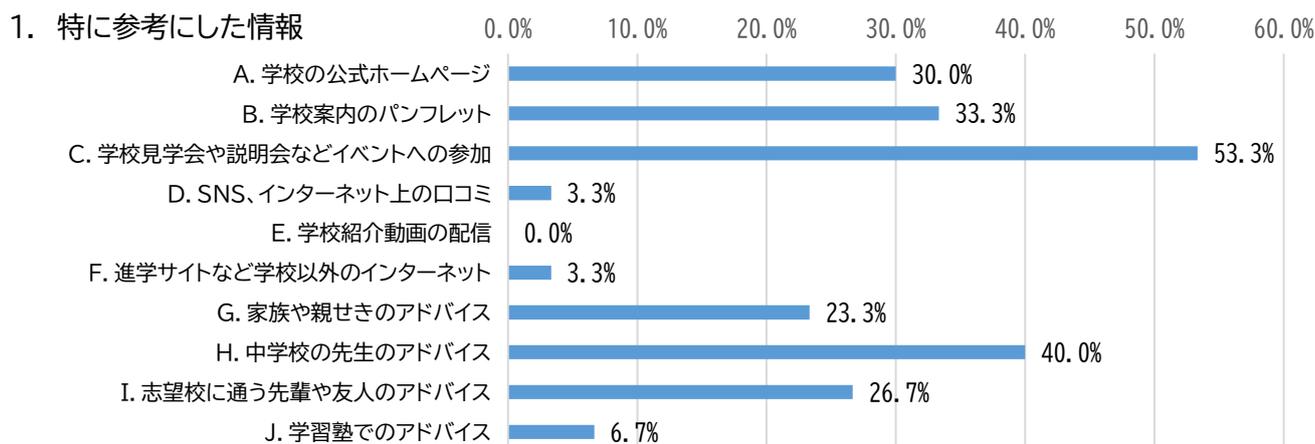
○志望校を選ぶ決め理由(上位:あてはまる)

① 入試の難易度 ② 専門的知識 ③資格取得

(下位:あてはまらない)

① 進学に有利 ②学習塾勧め ③部活動

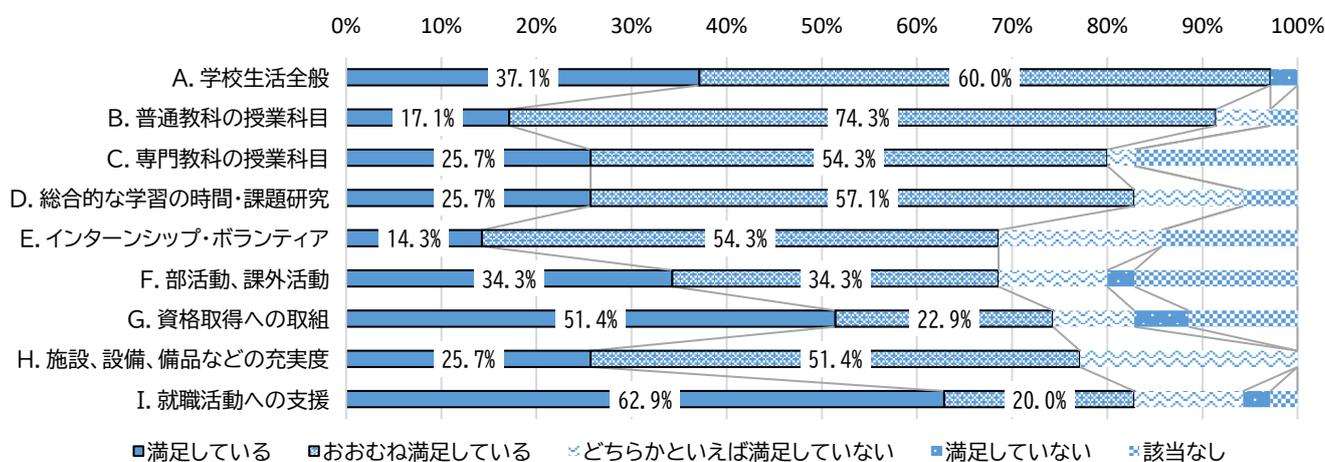
問3 次の項目(A~J)のうち、志望校を決めるための情報について、教えてください。



○今後、充実が必要の回答と、参考にした回答の差が大きいもの（期待あるが情報がなかった、少なかったもの）
 ① SNS、インターネット上の口コミ ② 学校紹介動画の配信 ③ 学校の公式ホームページ

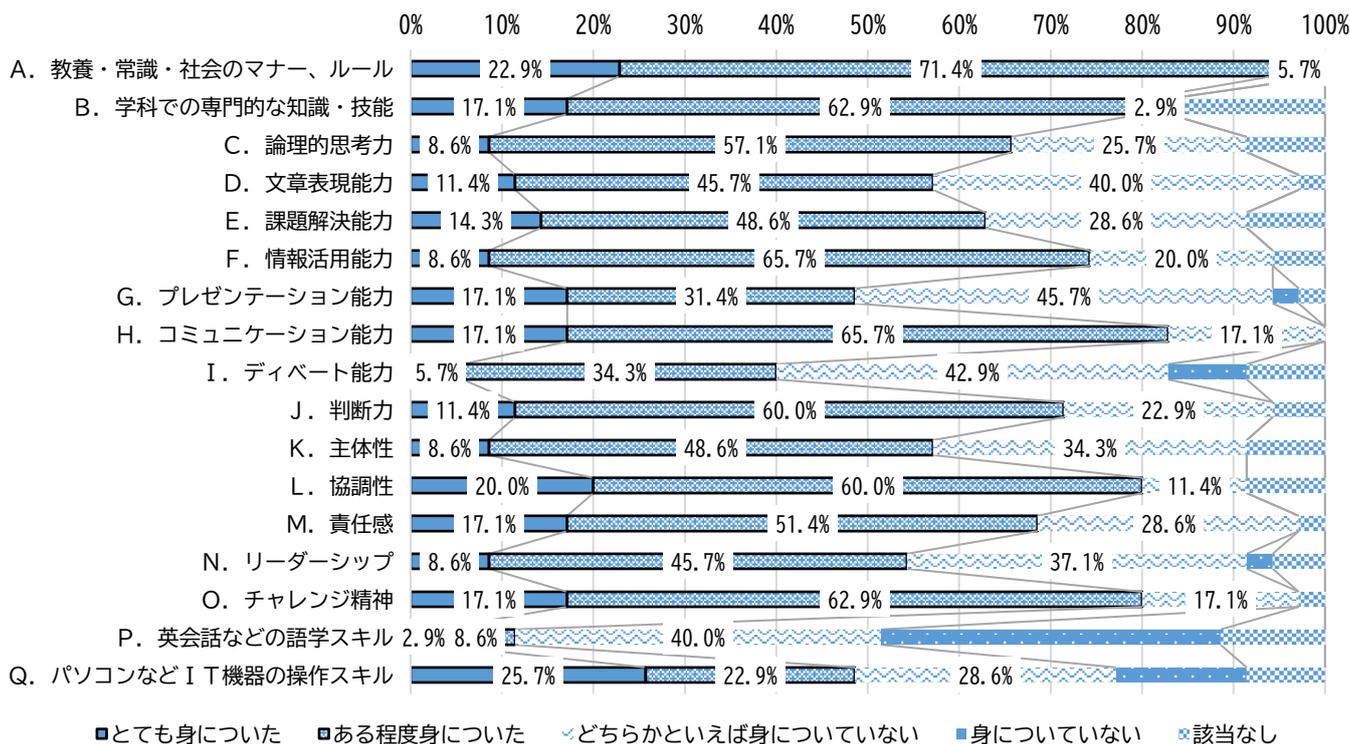
Ⅲ 高等学校在籍時のこと

問4 高校時代を振り返り、学校生活の満足度についてお聞きします。



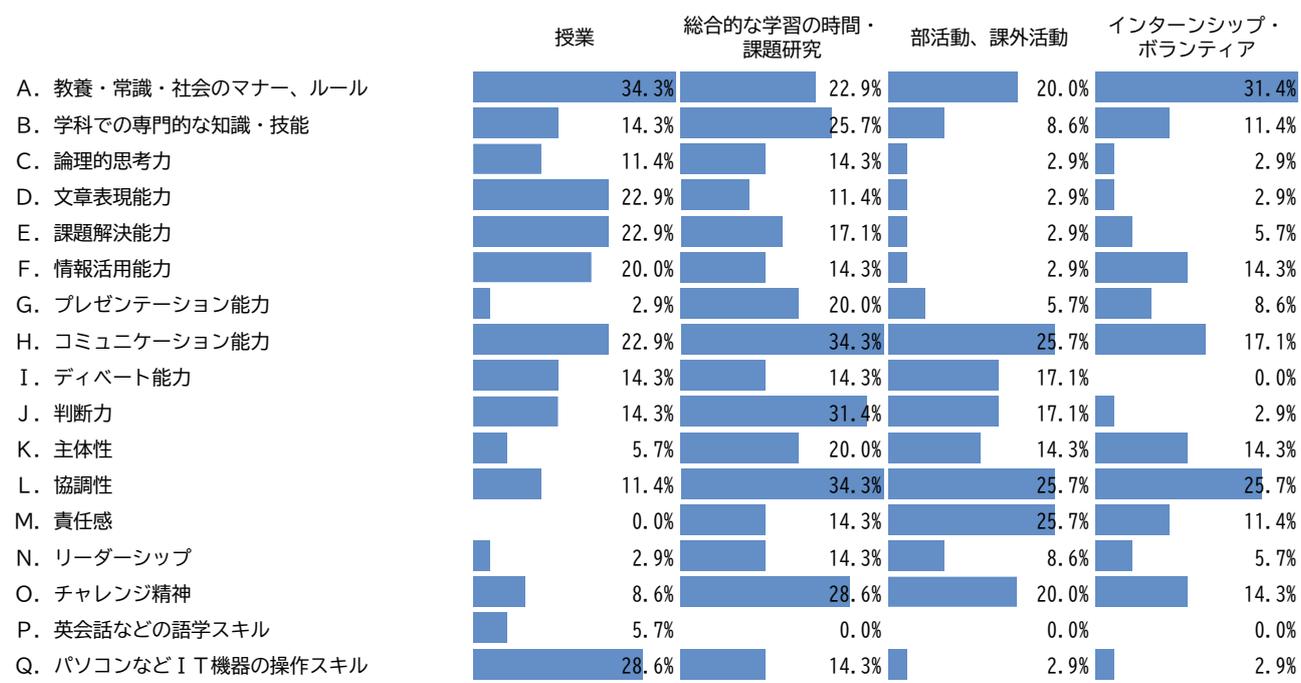
○満足度の高いもの（卒業してからも満足感が強く記憶に残るもの）
 ① 就職活動への支援 ② 資格取得への取組 ③ 学校生活全般

問5 学校生活を通じて、どの程度の知識・技能・能力等が身についたと思いますか。



○企業が高卒者に求める資質である、教養・常識、マナー・モラルといった基本的な部分については、90%以上が身についたと回答している。一方、プレゼン・ディベートの能力、語学・PCスキルが低い傾向にある。

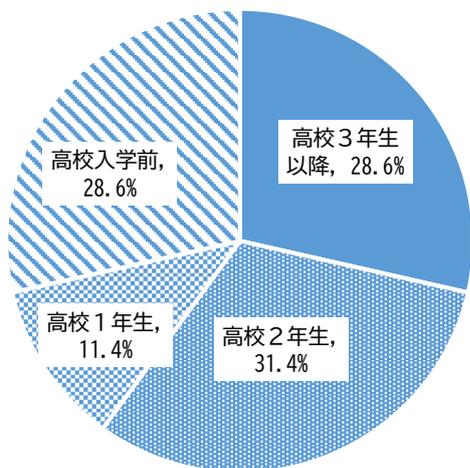
問6 問5の学校生活を通じて身につけたものの中で、「とても身についた」、「ある程度身についた」と回答したものについて、次の場面でどの力が身についたと考えますか。



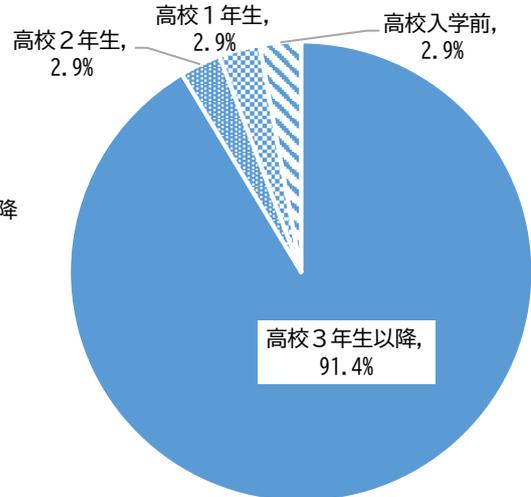
○A～I「知識・能力」 J～O「思考・態度」 P・Q「特定スキル」と分類した場合、授業では、「知識・能力」を、課外活動では、「思考・態度」を、総合的な学習の時間・課題研究では両方をバランスよく身につけたと感じている。

IV 現在の仕事について

問7 卒業後の進路を就職に決めたのはいつですか

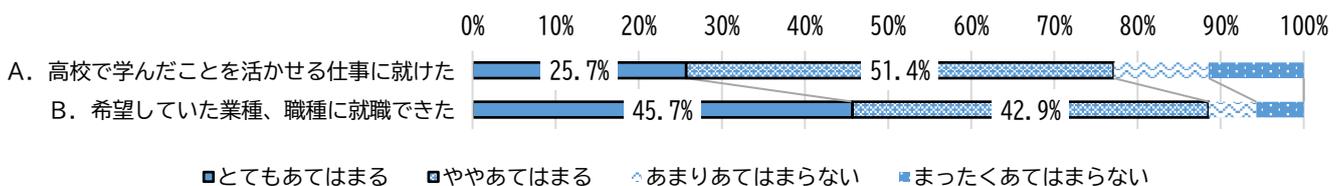


問8 いまの職場を就職先として考えたのはいつからですか

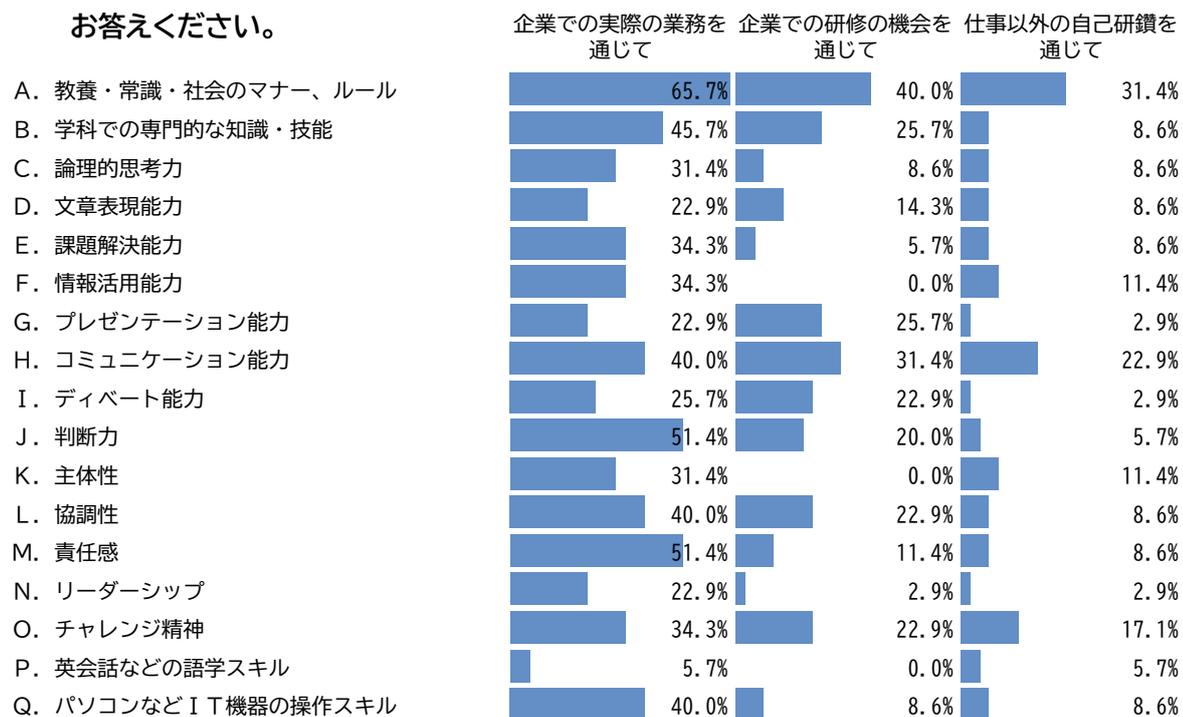


○卒業後の進路を就職に決めたうえで高校進学する者が1/3いる一方で、3年生段階で就職に決めた者も1/3いる。就職先については、90%以上が高校3年生になってから考えている。

問9 現在の仕事に対して、次のことがらはどれくらいあてはまりますか。



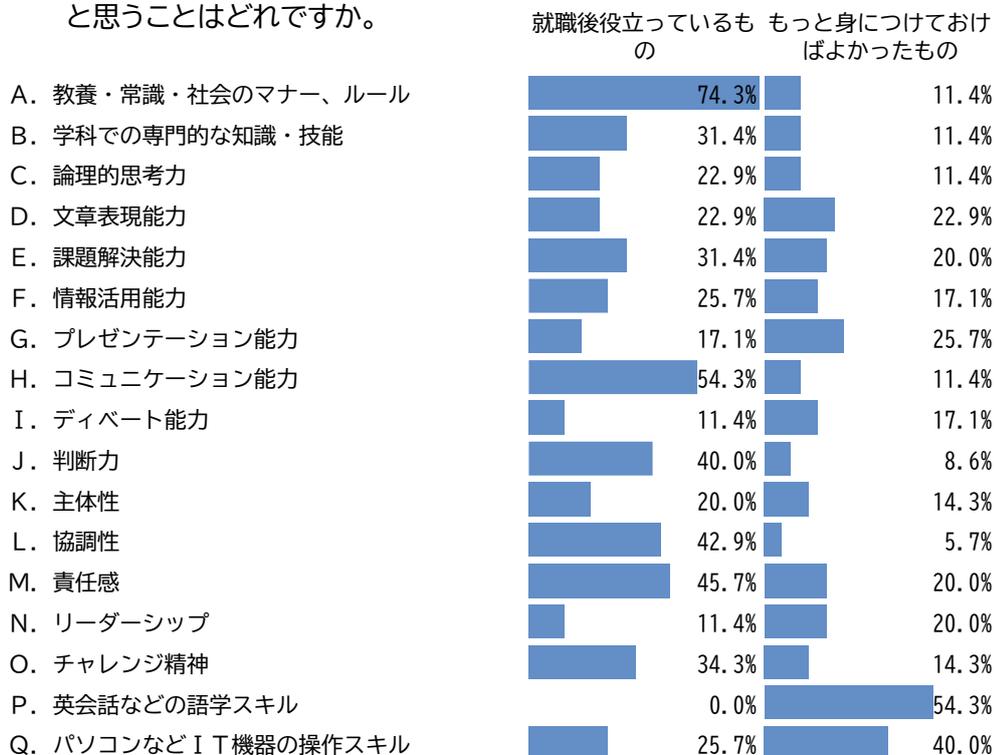
問10 問5の項目(A~Q)のうち、就職してから身につけてきたと感じるものはどれですか。場面ごとに教えてください。



○すべての項目において、企業での実際の業務を通じて身につけたと回答があり、入社後のOJTの充実がうかがえる。

問11 問5. 学校生活を通じて身につけたものの中で、「とても身についた」、「ある程度身についた」と回答したものについて、就職後に役立っていると思うものはどれですか。

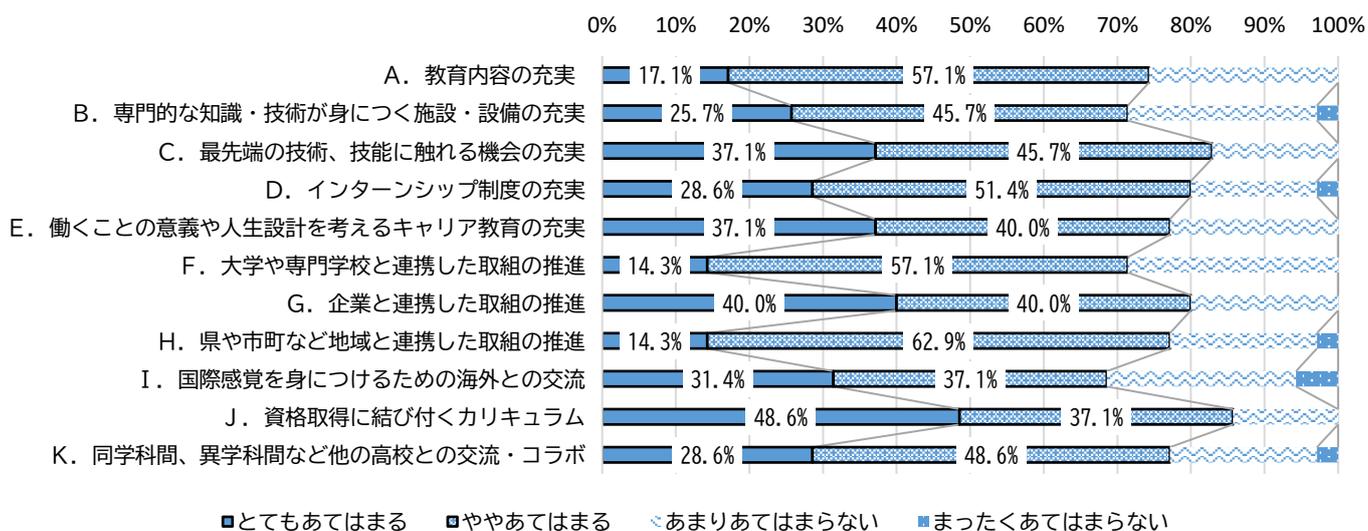
問12 問5の学校生活を通じて身につけたものの中で、「どちらかといえば身につけていない」、「身につけていない」と回答したものについて、仕事をする中で、高校在籍中にもっと身につけておけばよかったと思うことはどれですか。



○語学、パソコン操作などの「特定スキル」については、就職後、実際の業務の中で必要となってから、身につけておけばよかったと感じており、高校での学びにおいては、その動機づけが重要となる。

V 高等学校での学びについて期待や要望

問13 出身高校のこれからの教育に望むこととして、次のことがらはどれくらいあてはまりますか。



○これからの教育に望むこと（上位）

- ① 資格取得 ② 最先端の技術、技能に触れる機会の充実 ③ 企業との連携、インターンシップ充実

問14 その他、高校での学校生活を振り返って、出身高校での教育や高等学校での学びについて、今後、充実や改善すべき点があれば、自由にお書きください。

- 座学というよりも、実際に作ったり、触ったりする授業が多かったのが器用になりましたが、使う道具や機材が古く、使いづらかったのが新しい道具にしたほうが良いと思いました。先生は資格や技術をもっていてとても尊敬していました。
- パソコンを使う授業でプログラミングがありました。教科書をそのまま丸写しであったり、自由にプログラミングをして楽しむことがなく、プログラミングの楽しさを知ることがなく終わってしまったのが残念でした。資格をとるだけの知識だけでなく、楽しく身につけたらもっとプログラミングやパソコンに興味をもつ人が増えて、技術職に就職する人もでてきて学校のPRにもつながっていくと思います。
- 資格取得についてもっと順序をしっかりと定めたカリキュラムにしたり、全体で目標を定めるのではなく個人の技量に合わせて資格を受けさせたりする等の工夫が必要。
- もっと就職で有利になるように、高校1年生の頃から、漢検等の資格取得を授業でしてほしかった。資格が有利になると知った高校3年生の夏頃から皆急いで勉強していたので「やりたい人がやる」から、商業高校の資格のように授業に組み込んでほしかった。
- パソコン操作をもう少し授業で練習する機会を増やす。

問15 これから進路を考える中学生や、就職を考える高校生に対して、自身のキャリアを振り返り、アドバイスできることがあれば、自由にお書きください。

- 学生のうちに学べることはどんなことでも学んでおく方がいいと思います。
- 今、自分がやりたいことも大切やけど、今後自分がどう仕事をしているかっていうビジョンを見ることも大切。今自分がしていることが未来の自分につながることをする。資格は取っておいて損はないし、取れば一生ものだから取れるものは取ったほうが良い。
- 中学の時点で就職にすると少しでも考えていれば、高校はアルバイト可能なところへ行き、短時間でもよいのでアルバイト経験をした方が社会に出てからのコミュニケーションを0から始める難しさを少しでも緩和できると思います。飲食業やサービス業だと尚良いと思います。就職を選ぶのは人より先に社会に入ることなので少しでもコミュニケーション能力を高めるのが自分に自信を持つことにもつながると思います。
- 少しでも興味のある部活動があれば、入っておいたほうが良い。わからないことがあれば、先生や周りの大人に相談する。進路や就職のことはできるだけ早く決めておく。相談しやすい友達・先生を見つける。
- ここ近年では、大学に進学される方が非常に多くなっています。ですが、職種によっては高卒の方が有利な場合も多くなっています。まずは、自身のやりたいこと明確にし、目標達成には、どのようなことをしなければならぬのかを考え、実行に移すことが大切です。
- 事務職に関しては、パソコンをある程度触れると即戦力になります
- 自分の将来は自分で決めるものだから、焦らずゆっくり考えて、進路を決めるといい。

- 先生や親、友達など分からないことは聞いて、相談や質問は積極的にしていく事が大切だと思います。
- 高校を選ぶ際は、友達が行くからや学力のレベルと合っているからなどで選ぶのではなく、高校を卒業した後、どうなっていたかをしっかり考えて選んでほしい。高校によって就職に有利であったり、色々特色があるので、なんとなくではなく、将来の事を考えてください。・就職をした後に、こんな職場だと思わなかった、ということがあるので、配られる資料、パンフレットだけでなく、ちゃんと自分で情報収集したほうが良いです。
- まず自分の進路についてしっかり考えてから高校選びをした方がよいです。高校には、進学に強い学校、就職に強い学校、専門学校に強い学校など様々。そして今の自分が将来何をしたいのか、何になりたいのか、未来設計図を立ててください。学校とは交流を深め、学び知識を蓄える場所です。
- 何事にも自分の意思を強く持ってほしいです。人に流されず自分自身がやらなくてはならないことなどを判断して後悔のない選択をしてほしいです。
- 自分の好きなこと(興味のある)職種を探したほうがいい。
- 後悔のないようにしっかり考えて進路を決めてもらいたいです。

「高等学校の学びと就職に関する卒業生等調査」調査票



令和3年3月 滋賀県教育委員会

- この調査は、滋賀県教育委員会が、これからの県立高校の在り方を検討するにあたって、高等学校における学びの現状を把握するとともに、今後の産業教育や人材育成を検討するための参考資料として活用することを目的としています。そこで、①高等学校在籍時の学びを振り返り、今後の高校教育への期待や要望、②企業や産業界から見た人材育成の在り方、という2点を明らかにすることを主眼として「高等学校の学びと就職に関する卒業生等調査」を実施させていただくことにしました。
- 御意見・御回答は、統計的に処理し、匿名にて集計いたします。本調査目的以外に回答等を使用することはありません。
- 調査の趣旨を御理解いただき、御協力賜りますようお願い申し上げます。

以下、あてはまる番号や記号に○をつけてください。[] 内には数字または言葉を御記入ください。

I 回答いただく方のごことについてお聞きします。

氏名	[(企業名・事業所名)]		
出身高校名	[高等学校]	高校卒業年月	(西暦) []年3月
出身学科	[科]	系列・類型・コース	[]

II 高等学校入学前のことについてお聞きします。

	中学3年生	中学2年生	中学1年生	中学入学前
問1 志望校を決めたのはいつですか	4	3	2	1

問2 あなたが志望校を決めた理由として、次のことがらはどれくらいあてはまりましたか。

※該当がない場合は、空白回答としてください。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
A. 専門的な知識や技術が身につけられるから	4	3	2	1
B. 興味のある分野の勉強ができると思ったから	4	3	2	1
C. 将来、自分に向いている仕事に就けると思ったから	4	3	2	1
D. 就職に有利だと思ったから	4	3	2	1
E. 進学に有利だと思ったから	4	3	2	1
F. 資格が取得できるから	4	3	2	1
G. 施設や設備など、学習環境が充実しているから	4	3	2	1
H. やりたい部活動があったから	4	3	2	1
I. 校風やイメージが自分に合っていると思ったから	4	3	2	1
J. 通学しやすいから	4	3	2	1
K. 入試の難易度が自分の学力にちょうど良いと思ったから	4	3	2	1

L. 中学の先生や家族に勧められたから	4	3	2	1
M. 学習塾で勧められたから	4	3	2	1
N. 学校説明会などに参加してよかったから	4	3	2	1
O. ほかに選択がなかったから	4	3	2	1

問3 次の項目(A~J)のうち、志望校を決めるための情報について、教えてください。

A. 学校の公式ホームページ	F. 進学サイトなど学校以外のインターネット
B. 学校案内のパンフレット	G. 家族や親せきのアドバイス
C. 学校見学会や説明会などイベントへの参加	H. 中学校の先生のアドバイス
D. SNS、インターネット上の口コミ	I. 志望校に通う先輩や友人のアドバイス
E. 学校紹介動画の配信	J. 学習塾でのアドバイス

該当するもの3つ以内で○をしてください。

1. 特に参考にした情報	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J
2. 今後、充実が必要と考えられる情報	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J

Ⅲ 高等学校在籍時のことについてお聞きします。

問4 高校時代を振り返り、学校生活の満足度についてお聞きします。

※該当がない場合は、空白回答としてください。

	満足 している	おおむね 満足 している	どちらかと いえば満足 していない	満足 していない
A. 学校生活全般	4	3	2	1
B. 普通教科の授業科目	4	3	2	1
C. 専門教科の授業科目	4	3	2	1
D. 総合的な学習の時間・課題研究	4	3	2	1
E. インターンシップ・ボランティア	4	3	2	1
F. 部活動、課外活動	4	3	2	1
G. 資格取得への取組	4	3	2	1
H. 施設、設備、備品などの充実度	4	3	2	1
I. 就職活動への支援	4	3	2	1

問5 学校生活を通じて、どの程度の知識・技能・能力等が身についたと思いますか。

※該当がない場合は、空白回答としてください。

	とても 身についた	ある程度 身についた	どちらかと いえば身に ついていない	身について いない
A. 教養・常識・社会のマナー、ルール	4	3	2	1
B. 学科での専門的な知識・技能（普通科を除く）	4	3	2	1
C. 論理的思考力（因果関係を整理し順序立てて考える力）	4	3	2	1
D. 文章表現能力（文章を書く力・相手に伝わる表現力）	4	3	2	1
E. 課題解決能力（問題を見つけ、方法を考え、実行する力）	4	3	2	1
F. 情報活用能力（情報を収集、選択し、適切に活用する力）	4	3	2	1
G. プレゼンテーション能力（人前で発表する力）	4	3	2	1

H. コミュニケーション能力（意思疎通を円滑にする力）	4	3	2	1
I. ディベート能力（議論・討論する力）	4	3	2	1
J. 判断力	4	3	2	1
K. 主体性	4	3	2	1
L. 協調性	4	3	2	1
M. 責任感	4	3	2	1
N. リーダーシップ	4	3	2	1
O. チャレンジ精神	4	3	2	1
P. 英会話などの語学スキル	4	3	2	1
Q. パソコンなどIT機器の操作スキル	4	3	2	1

問6 問5の学校生活を通じて身につけたものの中で、「とても身についた」、「ある程度身についた」と回答したものについて、次の場面での力が身についたと考えますか。該当するもの全てに○をしてください。

1. 授業	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
2. 総合的な学習の時間・ 課題研究	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
3. 部活動、課外活動	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
4. インターンシップ・ ボランティア	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q

IV 現在の仕事についてお聞きします。

	高校 3年生以降	高校 2年生	高校 1年生	高校 入学前
問7 卒業後の進路を就職に決めたのはいつですか	4	3	2	1
問8 いまの職場を就職先として考えたのはいつからですか	4	3	2	1

問9 現在の仕事に対して、次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	とても あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない
A. 高校で学んだことを活かせる仕事に就けた	4	3	2	1
B. 希望していた業種、職種に就職できた	4	3	2	1

問10 問5の項目(A～Q)のうち、就職してから身につけてきたと感じるものはどれですか。場面ごとにお答えください。該当全てに○をしてください。

1. 企業での実際の業務を通じて	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
2. 企業での研修の機会を通じて	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
3. 仕事以外の自己研鑽を通じて	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q

問11 問5. 学校生活を通じて身につけたものの中で、「とても身についた」、「ある程度身についた」と回答したものについて、就職後に役立っていると思うものはどれですか。該当するもの全てに○をしてください。

就職後役立っているもの	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
-------------	-----------------------------------

問12 問5の学校生活を通じて身につけたものの中で、「どちらかといえば身につけていない」、「身につけていない」と回答したものについて、仕事をする中で、高校在籍中にもっと身につけておけばよかったと思うことはどれですか。該当するもの全てに○をしてください。

もっと身につけておけばよかったもの	A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L・M・N・O・P・Q
-------------------	-----------------------------------

V 高等学校での学びについて期待や要望をお聞きます。

問13 出身高校のこれからの教育に望むこととして、次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
A. 教育内容の充実	4	3	2	1
B. 専門的な知識・技術が身につく施設・設備の充実	4	3	2	1
C. 最先端の技術、技能に触れる機会の充実	4	3	2	1
D. インターンシップ制度の充実	4	3	2	1
E. 働くことの意義や人生設計を考えるキャリア教育の充実	4	3	2	1
F. 大学や専門学校と連携した取組の推進	4	3	2	1
G. 企業と連携した取組の推進	4	3	2	1
H. 県や市町など地域と連携した取組の推進	4	3	2	1
I. 国際感覚を身につけるための海外との交流	4	3	2	1
J. 資格取得に結び付くカリキュラム	4	3	2	1
K. 同学科間、異学科間など他の高校との交流・コラボ	4	3	2	1

問14 その他、高校での学校生活を振り返って、出身高校での教育や高等学校での学びについて、今後、充実や改善すべき点があれば、自由にお書きください。

問15 これから進路を考える中学生や、就職を考える高校生に対して、自身のキャリアを振り返り、アドバイスできることがあれば、自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。

高等学校の学びと就職に関する事業所への聞き取りについて（概要）

- 訪問先 高卒採用の実績がある県内7事業所 経営者または人事採用担当者
- 訪問先選定 業界団体（滋賀経済産業協会、滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県商工会議所連合会等）からの推薦による
- 訪問日 令和3年(2021年)4月16日（金）・4月19日（月）
- 意見聴取内容
 - ・高卒者が身に付けてほしいこと
（高卒者が入社時に身に付けている知識・技能・能力等で役に立つことは何か）
 - ・入社後、特に育成をされている知識・技能・能力等はなにか
 - ・入社してくる高卒者のマッチングおよび入社後の適応について
 - ・大卒者と高卒者の会社での役割について
 - ・求職者に対して、情報発信をどのように行っているか
 - ・その他、感じられていること

訪問先	主 な 意 見
1 製造業 (野洲市)	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒よりも大卒の採用が多い。 ・組立、加工などの技術系も、経理などの事務系も、普通科卒より専門学科卒のほうが力を発揮できる。 ・大学生には判断力や主体性を期待するが、<u>高卒者には、協調性や素直さや真面目さを求めている。</u> ・入社後の研修は、大卒も高卒も同じように受け、教育担当が面談や相談をしながらOJTの中で業務や技術を学ぶ。大卒との知識の差があるなら、OJTの中で埋めていく。 ・滋賀県は大手の工場が多く、就職の際もやはり知名度で企業を選んでいるように感じる。中小企業にとっては人材確保が厳しい。 ・<u>インターンシップや職場見学は、実際の職場の雰囲気や働き方を掴んでもらうよい機会と考えているので、積極的に受け入れたい。</u>
2 建設業 (彦根市)	<ul style="list-style-type: none"> ・求人を出しているが、応募が少ないのが現状。今のところコロナの影響は少なく、人材不足の状況である。業界的に大卒に敬遠される傾向にある。 ・<u>高卒者には、特に教養・マナーをきちんと身につけておいてほしい。また、最低限必要な基礎的な学力（面積の計算など）は、理解しておいてほしい。</u> ・入社後は、ベテラン社員に付いて、3か月単位のローテーションOJTの中で業務や技術を学ぶ。 ・<u>インターンシップは短期も長期も歓迎。書面や面接ではわからない適性や会社、業務を知ってもらいたい機会となっている。</u> ・建設業もIT化が進んでおり、データやCGを駆使して業務を進めるようになってきているため、<u>IT人材の育成が必要</u>と感じている。
3 卸小売・飲食業 (彦根市)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、多くの高卒者を採用している。 ・高校で身につけておいてほしい特別の知識や能力はなく、<u>素直に学ぶ姿勢、目を見て挨拶ができる、きちんと敬語が使えるといった、基本的な社会性を求めている。</u> ・入社後の研修の様子を見ていると、高卒者のほうが自分の殻を破って、早くに馴染んでいるように見える。 ・就職に対する覚悟の違いか、高卒者のほうが離職率は低い。 ・<u>同一労働同一賃金の観点から、高卒と大卒で扱いに差はない。</u>むしろ、高

3 卸小売・飲食業 (彦根市)	<p>卒で4年勤務経験を積み、大卒の年齢時には大きな経験の差になると考えている。</p> <p>・ <u>仕事に必要なExcelやマクロ、関数などのパソコン操作は、入社後に学ばばよい。</u>パソコンやスマホが当たり前にある世代であり、対応は早い。</p>
4 農林漁業 (米原市)	<p>・採用は大卒者のほうが多いが、コンスタントに高卒者も採用している。</p> <p>・これまでは、農業科出身者を採用することが多かったが、今年度は、普通科卒と総合学科卒を採用しており、農業科以外の学校訪問も行うようにしている。</p> <p>・ <u>高卒者には、挨拶、マナー、前向きな姿勢など人間性の部分を求めている。</u>スキルとしては、<u>基本的なパソコン操作と、業務遂行上、自動車免許の取得が望ましい。</u>運転免許については、入社までに取得できるように学校としても配慮いただけるとありがたい。</p> <p>・ <u>高校生だからといって勉強だけでなく、部活やスポーツなど様々な経験を通して広い視野を持てるようにしてほしい。</u></p>
5 運輸通信倉庫業 (彦根市)	<p>・高卒、専門卒、大卒と幅広く採用している。公共性が高い事業のため、土日や9時・17時といった勤務でないため、敬遠されがちで人材不足である。</p> <p>・高校において教育として習う専門性と、社会に出てビジネス上必要となる専門性には一定乖離があると感じている。<u>職業上必要となる専門性の育成は、入社後、企業がきちんと教育していく責務がある。</u>高校では、<u>その基礎となる部分をしっかり身につけておいてほしい。</u></p> <p>・社会に出れば、いろいろな人と関わりながら、仕事を進めることになるので、学校教育でも多くの人と接する経験や人間性を育むことを重視してほしい。</p> <p>・ <u>インターンシップや職場見学に参加し、実際に業務に触れ、ある程度、仕事や会社を理解した上で、就職しないと離職率が高くなる傾向がある。</u></p>
6 サービス業 (大津市)	<p>・高卒者を積極手に採用するようにしている。<u>高卒者のほうが、ベースが真っ白で何事でも吸収が早い。</u></p> <p>・専門学科卒であっても普通科卒であっても関係なく、本人のやる気と、サービス業で働きたい動機を大切にしている。</p> <p>・サービス業は、従業員そのもの人となり商品であり、サービスになる。<u>OJTを繰り返し、経験、場数を踏んで体に染み込ませていくことが必要。</u></p> <p>・ <u>高校で身につけておいてほしいことは、敬語、挨拶、相手の顔を見て話すといった人としての当たり前の部分、所作である。</u></p> <p>・サービス業の華やかな部分だけを見て就職しても長続きはしない。介護職のような志しが求められる。</p>
7 福祉(介護職) (長浜市)	<p>・ <u>資格を取得し入社してくるため、即戦力となっている。</u>高校では実習もあり、就職後のイメージもある程度できていると思う。</p> <p>・現場では、記録や報告などの事務作業も多く、<u>パソコンを必要とする業務も多く、仕事で使える操作スキルは身につけておいてほしい。</u></p> <p>・人相手の仕事であるので、<u>人と話すこと、自分の気持ちを伝えることなど、コミュニケーション能力を大切にしている。</u></p> <p>・入社後は、プリセプター(指導者)がつき、<u>OJTの中で育成、サポートしていく。</u></p> <p>・今後は、外国籍の方の介護も増えることが考えられるため、<u>外国語によるコミュニケーションも求められるようになると思う。</u></p>

滋賀県産業教育審議会 第3回会議資料 各学科における学びの在り方について

観点1 Society5.0 社会に対応した人材育成について、2つの方向性から考えられる、それぞれ学科らしい学び、提供すべき学習内容、体験、活動

※ 滋賀県の目指す方向（SDGs、MLGs、しがCO₂ネットゼロ）を意識し、滋賀県らしい産業教育の展開

方向性①

SDGs、持続可能な社会の実現、滋賀県版 SDGs である MLGs の推進できる人材、社会的課題を起点にした学び、技術の習得、態度の醸成

(1) 農業学科

農業の専門学習を通し、持続可能な社会の実現を目指すために、関連大学・関連企業・地域農団体や生産者と共に持続可能な開発目標（SDGs）を推進する。

Society5.0 人材に必要な創造性と専門スキルの基礎基本を身につけながら、農業の見方・考え方を学び、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域や社会において健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質や能力を育成する。

<具体的な取組>

○課題研究（総合的な探究の時間）

農業生産に係る技術、連携活動や地域農業の課題など様々なテーマで技術改善や調査・研究を行う。

○地域貢献活動

農業学習を活かし、地域において各種の講座や共同栽培等を行い、農業技術の改善と環境に配慮した農業の普及活動を行う。

○地域の農業教育拠点校としての役割

日々の農業学習を通して、地域農業のセンター機能的役割を果たし、地域農業の現状把握、農業技術の普及活動を行うことや環境と調和のとれた農業生産活動を普及・推進する。

(2) 工業学科

SDGs および MLGs の目標設定である持続可能でよりよい社会の実現に向け、AI や IoT 技術を活用し、創造力、協働力、挑戦する力などの実践力とリーダーシップを兼ね備え、社会で活躍するスペシャリストを育成する。

<具体的な取組>

○「ものづくり教育」をとおした基礎基本の定着

基礎的基本的な学習の定着と、職業人としての基礎的基本的な資質能力を身につけさせる。基礎的基本的な知識・技能の修得、生活習慣の確立、社会人としてのマナーを身につけ

させ、自分の将来を見通し、働く意義や生きがいを持ち、心豊かな生活をするキャリア教育を推進する。

○専門性を備えた人材育成

Society5.0 社会に対応できる情報活用能力を育み、専門的な知識や最先端の技術の学びを深める教育を推進する。探求型学習を行い、幅広い知識や技術を基に、課題の解決や新たに創造する活動に取り組む。学びに向かう力、他者と協働する力などを身につけさせ、専門性スキルを醸成する。

○ICT 技術を活用したグローバル化

全国の工業高校や海外の工業系学校さらに大学・企業と連携し、グローバルな視点で「ものづくり」の学びを深める。AI 技術、ロボティクス技術、情報リテラシーなどを総合的に学び「ものづくり」から生み出される新たな価値を創造できる力を高める。

(3) 商業学科

経済活動の中で、特に教科「商業」で取り扱う生産、流通、消費について、トータルで SDGs の観点から学ばせる取り組みを行う。

<具体的な取組>

○生産 for SDGs

モノづくりにおける環境負荷をいかに低減し、持続可能な生産活動を実現するか。モノづくりの現状と課題を商業の観点から調査研究分析し、提言する。

(対象科目「商品開発と流通」「ビジネス・マネジメント」「課題研究」)

○流通 for SDGs

卸小売、運送、倉庫といった流通活動における環境負荷をいかに低減し、持続可能な流通活動を実現するか。流通の現状と課題を商業の観点から調査研究分析し、提言する。

(対象科目「商品開発と流通」「ビジネス・マネジメント」「課題研究」)

○消費 for SDGs

フードロスやプラごみなど消費における環境負荷をいかに低減し持続可能な消費活動を実現するか。消費における現状と課題を調査研究分析し、提言する。

(対象科目「マーケティング」「ビジネス・マネジメント」「課題研究」)

(4) 家庭

学校家庭クラブや課題研究、専門科目の学習などによって、近接学科と連携し発展的な内容について課題を設定、研究を行う講座を設置し、教育課程に位置づける。

<具体的な取組>

○福祉科との連携

高齢者、子どもを巡る問題等について課題の共有を図り、お互いが取り組むべき内容について意見交換し、研究テーマを設定する。

○農業科、福祉科との連携

食生活を巡る問題について課題の共有を図り、お互いが取り組むべき内容について意見交換し、研究テーマを設定する。

(5) 福祉

課題研究、専門科目の学習などによって、近接学科との連携し発展的な内容について課題を設定、研究を行う講座を設置し、教育課程に位置づける。

<具体的な取組>

○家庭科との連携

高齢者、子どもを巡る問題等について課題の共有を図り、お互いが取り組むべき内容について意見交換し、研究テーマを設定する。

○工業科、家庭科との連携

介護機器、保育玩具の製作

方向性②

琵琶湖を預かる環境先進県としての産業教育、学び、しがCO₂ネットゼロを推進できる人材

(1) 農業学科

<具体的な取組>

○環境こだわり農業（滋賀県環境こだわり農業推進条例）の推進

湖国の農業の健全な発展と琵琶湖等の環境を保全することを目指し、化学的に合成された農薬や肥料の使用を削減するなど環境への負荷を低減し、農業の有する自然循環機能高め、より安全で安心な農産物を消費者に供給する取り組みを推進する。

○GAP教育、HACCP等教育の推進

食品の安全を確保し、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組を推進し、製品の安全性を確保する衛生管理の手法を取り入れる。

(2) 工業学科

<具体的な取組>

○SDGsの実現とSociety5.0社会において、よりよい社会の実現に向け、社会が変化し技術開発が進む中で、エネルギー供給に関する課題がある。また、大量生産・大量消費の生産性を重視する時代から、持続可能な消費と生産性が注視され、付加価値ある製品の生産時代へと変化している。AIやIoT技術を活用する産業界の変化を、正確に情報を得て、経済活動と教育をつなぐ必要がある。工業高校での学びにおいて、産業技術の発展と環境問題、エネルギー問題との関わりをテーマに、地球温暖化、環境負荷を低減させる生産、資源やエネルギーの効率化など、未来を見据え課題解決に向け生徒の学びを深める教育を推進する。

また、近江商人の「三方よし」の経営理念は、職業人として製造者、消費者、社会貢献を考えた、ものづくり教育を進める題材となる。琵琶湖の自然環境との共存を見つめ、CO₂排出量を制限したものづくり教育を推進する。

(3) 商業学科

<具体的な取組>

- 美しく輝く琵琶湖で輝く滋賀を実現する。[MLGs 4 水辺も湖底も美しく]

教科「商業」では、私たちの消費活動に着目し、水辺に散在するごみの問題や排水が琵琶湖の水環境に与える影響等を調査・研究・分析し、改善に向けての提言をする。

(対象科目「課題研究」「ビジネス・マネジメント」)

- 美しい琵琶湖でにぎわう滋賀を実現する。

母なる湖「琵琶湖」から生み出される衣食住を活用して、生活に根付いた観光によりにぎわう滋賀を実現するための滋賀の良さの発見とそれを生かす方策について学び、提言する。

(対象科目「観光ビジネス」「課題研究」)

観点2 地域や産業界と連携した産業教育について、実態社会との調和を意識した産業・経済全体を俯瞰した学科らしい学びを提供するために、これまでの連携の枠を超えた学び、協働の形や接点が求められるか

(1) 農業学科

<具体的な取組>

- 小学科の専門学習を活かした地域や関係団体との連携

中・上級学年では小学科ごとに専攻分野を配置し、より専攻分野に特化した農業学習を行い、学習内容を活かせる地域や関係団体との連携を図り、協働による課題解決学習を展開する。

- 地産地消・6次産業化を目指した取組

上記の専攻分野同士が連携を図り、生産から加工、流通へと結びつける小学科を越えた取組を行い、地産地消や6次産業化を推進する。

- 異業種との連携

農業学習で身につけた基礎基本を活かし、異業種との連携・協働を図り、特産物や新商品の開発を目指した学習活動を展開する。

(2) 工業学科

<具体的な取組>

- 地域との連携と社会貢献

関連企業・大学・地域との連携を深める。外部講師の招聘、インターンシップ等の連携事業を更に進化させ、経済団体等の産業界を核に、地域の産官学の関係者と工業高校関係者が一体となり、滋賀の産業を担う技術者としての人材育成を行う。工業高校3校合同でコンソーシアムを構築し、長期のインターンシップ、滋賀県版デュアル・システム、海外

インターンシップなど企業と連携し実社会での学びを深める。連携事業は最先端の知識や技術力の育成だけでなく、コミュニケーション能力や、チームで課題を解決する協働性、リーダーシップなど実社会で求められる職業人としての資質能力を高めることができる。

小中学校との連携事業(出前授業や文化祭交流)を充実させるとともに、地域イベントへ参加し、工業高校の生徒が活躍する場を広げ、地域へ発信する。

地域の清掃活動で回収したゴミや、実習で出た金属や樹脂系のごみ、廃薬品などの成分について学習し、環境に及ぼす影響や処理方法などについて理解を深めるとともに、地域と一体になり環境問題における課題について学習し、解決をめざす。

地域の防災に携わることにより防災施設・設備、人工衛星や気象レーダーなどのデータ活用などを学習し、防災への意識を高め、地域とつながりを深める。

(3) 商業学科

<具体的な取組>

○商業高校生として滋賀で学び滋賀の良さを発見し伝える「滋賀再生プロジェクト」

生産、流通、消費を担う地元企業と高校生、大学生、大津市、県等が連携し、年間数回にわたってフォーラムを開催し、それぞれの立場での意見交換を行うとともに、現場での調査研究を通して学習したことをもとに高校生としてのアイデアをまとめ、研究成果を発表する。

(対象科目「課題研究」)

(4) 家庭

<具体的な取組>

○家庭科の専門学科としての学びを事業につなげる取組

家庭科の学習はそもそも様々な科学の応用、発展学習であることから、カリキュラムに位置づけ、県内の他の専門高校、大学や行政、企業と連携し、同一のテーマで役割分担を行うなど共同研究の取組を推進する。

各個人のホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動について優れたものを、高校生の取組として一元管理し、他の専門高校や大学や企業、行政の研究活動に対して情報提供できるようにする。

高校と社会(大学・企業・行政等)をつなぐコーディネーター。

(5) 福祉

<具体的な取組>

○福祉科の専門学科としての学びを事業につなげる取組

福祉科の学習は様々な科学の応用、発展学習であることから、カリキュラムに位置づけ、県内の他の専門高校、大学や行政、企業と連携し、同一のテーマで役割分担を行うなど共同研究の取組を推進する。

課題研究の取組成果を、他の専門高校、大学、行政、企業と共有できる仕組みを作り、共同研究のためのコーディネートを行う機関を設定する。

観点3 上記の2つの観点を支えることのできる教員の資質向上の方策、人材確保に必要なこと

(1) 農業学科

<具体的な取組>

○校内での研究活動

専門教員による1人1研究を推進し、校内研究発表会を開催することで、農業技術の深化、技術の継承を図る。

○外部研修の受講

関係外部団体が開催する各種の研修会や講座への積極的な参加を促し、学んだ知識・技術を校内で共有し専門教員としての資質向上を図る。

○関係資格取得の推進

法的に裏付けされた資格取得を推進し、生徒への学習の深化を図ると共に安全・安心な専門学習を展開する。

(2) 工業学科

<具体的な取組>

○Society5.0時代に必要とされる、情報活用能力、データリテラシーを高め、ICTやEdTechを効果的に活用し、専門的知識や技術力を高める指導を行い、教員一人ひとりが生徒の学びを引き出す柔軟な指導ができる組織体制づくりが必要と考えます。また、教員が自己の資質能力を高めるため、研修に費やす時間が確保できる体制づくりも必要です。

教員の人材確保については、教職の魅力高め、教師を目指す人材を増やすことが必要です。学校における働き方改革を推進するとともに、教師の処遇の在り方等について、教職に係る広報の充実を図り、学校教育の魅力を発信する必要があります。

また、民間企業に所属しながら、学校教育に各専門家が参画しやすいシステムがあると、地域の技術者と協働し、生徒の様々な学びの向上につなげることができると考えます。学校と地域の人材をつなぐコーディネーター委員や人材バンクの体制があると人材確保につながります。

(3) 商業学科

<具体的な取組>

○教員の資質向上

産業現場や行政機関等における現状や課題について、高校の教員が学ぶ場が必要である。教員を民間企業へ派遣して研修させるだけでなく、教員が学校現場で指導を行いながら、その指導のための知識やそれを指導するためのスキルを同時並行で身につけるための学びの機会を確保する必要がある。

○人材確保

産業界や行政機関、大学等の各分野での専門家を講師として招いて高校生に講義をしていただくために、校長の裁量で、ある程度自由に活用できる予算措置が必要である。

(4) 家庭

<具体的な取組>

- 教員も生徒も学校だけでなく、大学や企業、行政の人材との交流や現場の経験の機会を増やすこと。
- 校内外で専門的な学びが活かせる機会を増やす。
- 人材バンクの設立：テーマを設定し、講座を担当できる人材を募る。

(5) 福祉

<具体的な取組>

- 教員も生徒も学校だけでなく、大学や企業、行政の人材との交流や現場の経験の機会を増やすこと。
- 校内外で専門的な学びが活かせる機会を増やす。
- 人材バンクの設立：テーマを設定し、講座を担当できる人材を募る。

滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

	全日制課程・定時制課程				通信制課程
	推薦選抜	スポーツ・文化芸術推薦選抜	特色選抜	一般選抜	
R3実施校数	33校	19校	15校	49校 (全44・定5)	1校
R3受検状況	<ul style="list-style-type: none"> 受検者数 2,285名 入学許可予定者数 1,966名 (スポ文を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者数 144名 入学許可予定者数 132名 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者数 3,827名 入学許可予定者数 1,118名 (スポ文を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者数 6,712名 入学許可予定者数 5,860名 (以下、二次選抜) 受検者数 99名 入学許可予定者数 87名 	<ul style="list-style-type: none"> 受検者数 127名 入学許可予定者数 127名 (以下、二次選抜) 受検者数 19名 入学許可予定者数 19名
出願条件等	志望する動機が明確であり、出願先高等学校が示す推薦要件にふさわしく、適性・興味・関心および学習意欲を有する者のうち、中学校長の推薦を受けた者。出願は、1人1校、1課程、1学科または1科限りとする。	志望する動機が明確であり、出願先高等学校が示す推薦要件を満たし、適性・興味・関心および学習意欲を有する者のうち、中学校長の推薦を受けた者。出願は、1人1校、1課程、1学科または1科限りとする。	志望する動機が明確であり、適性・興味・関心および学習意欲を有する者。出願は、1人1校、1課程、1学科または1科限りとする。	出願は、1人1校、1課程、1学科または1科限りとする。ただし、出願しようとする県立高等学校の同一の課程に2つ以上の学科または1科が置かれる場合にあっては、これを第2志望または第3志望とすることができる。	他の課程および県立高等学校との併願はできない。
入学定員に占める割合等	募集定員の専門学科50%、総合学科40%、普通科30%を上限として教育委員会と協議し決定	推薦選抜・特色選抜の募集枠の50%を上限とし、実施校が、1指定競技・種目・部門につき10名以内で設定	募集定員の専門学科50%、普通科30%を上限として教育委員会と協議し決定	募集定員から推薦・特色・スポーツ・文化推薦選抜の合格者数を除いた人数	別に定員を示す。(320名)
選抜方法の概要	出願先高等学校長は、中学校長から提出された個人調査報告書および推薦書等の内容ならびに面接、作文または実技検査の結果を資料として、総合的に判定し、推薦選抜における入学許可予定者を決定するものとする。	出願先高等学校長は、中学校長から提出された個人調査報告書およびスポーツ・文化芸術推薦選抜推薦書等の内容ならびに各検査の結果を資料として総合的に判定し、スポーツ・文化芸術推薦選抜における入学許可予定者を決定するものとする。	出願先高等学校長は、志願者から提出された志願理由書および中学校長から提出された個人調査報告書等の内容ならびに口頭試問、小論文、総合問題または実技検査の結果を資料として、総合的に判定し、特色選抜における入学許可予定者を決定するものとする。	出願先高等学校長は、個人調査報告書、学力検査実施教科等の成績を資料として、高等学校教育を受けるに足る者を選抜し、入学許可予定者を決定するものとする。	出願先高等学校長は、提出された個人調査報告書および面接の結果を資料として、総合的に判定し、入学許可予定者を決定するものとする。
主な日程 (次頁の流れを参照)	1月末 出願 2月上旬 検査 2月中旬 合格通知	1月末 出願 2月上旬 検査 2月中旬 合格通知	1月末 出願 2月上旬 検査 2月中旬 合格通知	2月末 出願 2月末～3月上旬 出願変更 3月上旬 学力検査 3月中旬 合格発表	3月中旬 募集 3月中旬 合格発表

滋賀県立高等学校入学者選抜の主な流れ

		全日制課程・定時制課程		通信制課程
月	推薦・特色選抜 スポーツ文化推薦選抜	一般選抜		
1	出願			
2	推薦選抜 特色選抜 スポーツ・文化 芸術推薦選抜 ↓ 入学許可 予定者通知		出願	
3	↓ 入学許可 予定者発表	出願変更 ↓ 学力検査 [実技検査] ↓ 入学許可 予定者発表 二次選抜 出願 ↓ 二次選抜 検査 追検査 ↓ 二次選抜 発表 追検査 発表	募集 ↓ 入学許可 予定者発表 ↓ 二次選抜 募集 ↓ 二次選抜 発表	

変化への挑戦(Challenge for Change)～進取の気性を生かし持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人財の育成～

事業目標

- 築き上げてきたものを継承し新たな価値を創出していく力を育成する持続可能なシステムを構築する。
- Society5.0時代における、DX等新しい技術革新にも対応できる“人財”を地域の多様な主体の共創により育成していく。

- ・地域産業の変化をチャンスにできる力を養う。
- ・循環型社会実験の実践により、社会的課題を付加価値に転換できる想像力・創造力を醸成する。
- ・市内の高等教育機関(県立大学工学部・環境科学部、滋賀大学データサイエンス学部)等とビッグデータ分析などICT・デジタル教育で連携を図る。
- ・絶えず革新し続ける最先端技術と滋賀の風土が培ってきた伝統産業等の技と心を生かし、地域産業界と彦根工業高校が一体・同期化し、郷土愛にあふれた人財の育成によって地域を活性化させる。

事業概要

立地 古来より近畿圏・中部圏・北陸圏の結節点として位置づけられ、東海道新幹線、名神高速道路等が通り、阪神・中京の大工業地帯へのアクセスも良い交通の要衝に立地。

風土 人、もの、情報が盛んに行き交う中で、国内外との交流により進取の気性などが培われ、地域の特色ある文化や地場産業が形成。

学校 「ものづくりはひとづくり」という教育理念のもと、ものづくりのスペシャリストを養成し、経済界、産業界、政界に多くの有為な人財を輩出している創立100年の伝統校。

『人間力の向上』『基本的知識・スキルの向上』『変化をチャンスに転換する力』



- ・グローバル市場への展開
- ・環境や安全・安心にこだわったものづくり
- ・伝統的な地場産業の維持・発展・地域に対する誇り
- ・「新たなチャレンジ」がしやすいまち
- ・社会的課題をビジネスで解決
- ・「人」を中心においた、先人から受け継ぐ挑戦し続ける精神

1年目 人間力の向上、技術を身につける

マイスターHSビジョンの策定
マイスターHS運営委員会・事業推進委員会の設置

- ①ものづくりの歴史、近江商人の哲学(進取の気性・三方よし等)、滋賀の起業者を知る
- ②最先端技術と企業における人材育成
- ③基本的ものづくりの知識、スキル、国際意識の向上
- ④持続可能な社会を考えるⅠ：地域・地場産業の現状と社会的課題を知る

2年目 起業家精神・最新技術に触れる

マイスターHS・CEOを教頭(常勤)として配置
産業実務家教員を教諭(常勤)として配置

- ①社会解決型ビジネスの展開について経営者から学ぶ
- ②資格取得の推進による自己肯定感の向上・視野を広げる
- ③最先端技術の活用:ドローン、プログラミング等に触れる
- ④持続可能な社会を考えるⅡ:地域の特性や強み、社会的課題解決方法を模索する

3年目 成果の普及

事業の評価検証・改善、自走化方策の策定

- ①生徒による成果発表会の準備・企画・運営
- ②資格取得の成果集大成:自己肯定感の向上
- ③最先端技術の獲得:産業界と連携してDX、IoT等、ICT技術を習得する
- ④持続可能な社会を考えるⅢ:ビジネスモデル提案と地域との連携

自走化

研究成果の実証・改善の継続

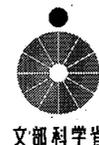
全国フォーラムを主催
マイスター・ハイスクールハブ校として
全国に成果普及

本事業でめざすSDGs目標



マイスター・ハイスクール（次世代地域産業人材育成刷新事業）

令和3年度予算額（案） 2.1億円
（新規）



背景 課題

- 第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション（DX）、六次産業化等、産業構造・仕事の内容は急速かつ絶えず革新。
- 更に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、DX, IoTの進展の加速度がさらに高まり、こうした革新の流れは一層急激に。
- こうした中、地域産業の人材育成の核となる専門高校の社会的要請として、産業構造・仕事の内容の絶え間ない変化に即応・同期化した職業人育成が求められる。

→アフターコロナ社会で成長産業化を図る産業界が期待する専門高校の職業人育成システムを抜本的に改革

事業内容：成長産業化に向けた革新を図る産業界と専門高校が一体・同期化し、第4次産業革命・地域の持続的な成長を牽引するための、絶えず革新し続ける最先端の職業人育成システムの構築

産業界と一体となった専門高校の職業人育成の抜本的改革

未来志向の産業界が中核となり、地元自治体等とともに、地域における人材育成と成長産業化のエコシステムの確立

【主な取組】

- 産業界他関係者一体となったカリキュラム刷新・実践（コース、学科改編等）
- マイスターハイスクールCEO（仮称）を企業等から指定し学校の管理職としてマネジメント
- 企業技術者を教員として採用（マイスターハイスクール版クロスアポイントメント）
- 企業等での授業・実習を多数実施、企業等の施設・設備の共同利用
- 専攻科設置や高専化、大学連携等の一貫教育課程導入等の抜本的な改革

第4次産業革命を担う職業人育成

専門高校
産業界

事業の成果等を通じて、第4次産業革命を牽引する地域産業人材育成エコシステムのモデルを示すことにより、各地域が取組む際の各種コスト低減を図ることが可能となり、全国各地で地域特性を踏まえた取組を加速化させ、次世代地域産業人材育成の全国的な社会最適を目指す

対象校種	国公立の高等学校	委託先	学校設置者、地方公共団体、民間企業、経済団体、協同組合等
箇所数 単価 期間	15箇所 1,300万円/箇所 3年	委託 対象経費	カリキュラム開発等に必要経費 (人件費、設備備品費、実習費等) 1

「スマート専門高校」の実現（デジタル化対応産業教育装置の整備）

資料2-7

文部科学省

令和2年度補正予算額（案） 274億円

目的

Society5.0時代における地域の産業を支える職業人育成を進めるため、専門高校においてデジタル化対応装置の環境を整備することにより、最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、デジタルトランスフォーメーション等に対応した地域の産業界を牽引する職業人材を育成する。

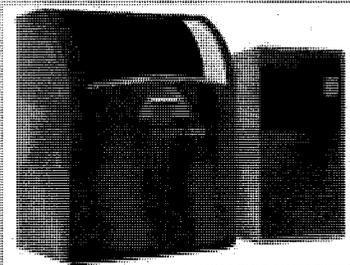
事業内容

農業や工業等の職業系専門高校における、ウイズコロナ・ポストコロナ社会、技術革新の進展やデジタルトランスフォーメーションを見据えた、高性能ICT端末等を含む最先端のデジタル化に対応した産業教育装置の整備に必要な費用の一部を国が緊急的に補助する。

整備する装置の例

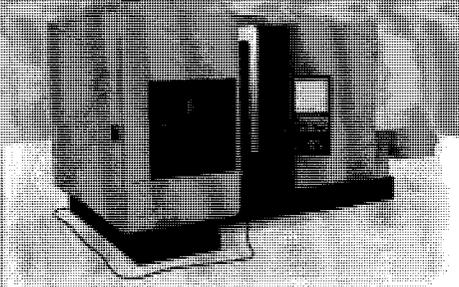
■金属造形3Dプリンタ

コンピュータで入力された数値をもとに、金属等の加工品を作成する産業用装置



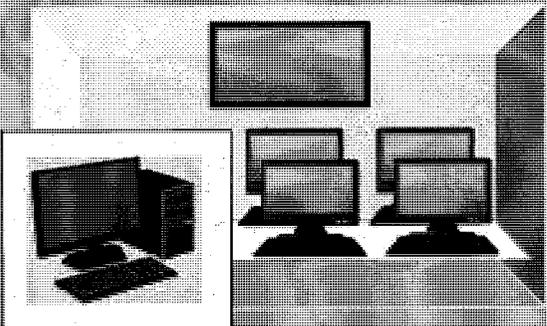
■マシニングセンター

自動工具交換機能を有した多種の加工を連続で行えるNC(数値制御)工作装置



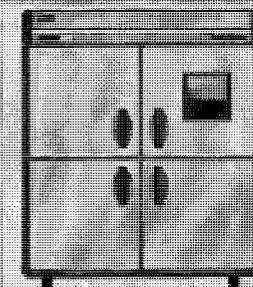
■高性能PC端末を配備した実習室の整備

装置の制御、画像な分析等多様な用途に活用



■冷凍・冷蔵実験装置

コンピュータ制御により、冷凍速度、温度を調節し、鮮度の違いを実験する装置



対象校種等

国公立の職業教育を主とする専門学科等を設置している高等学校

補助率

公立、私立：1/3 国立：10/10

補助対象事業者

学校設置者

対象経費

デジタル化対応産業教育装置の整備に必要な経費（装置の購入、設置工事費等含む）

令和2年度「学校施設環境改善交付金」（「スマート専門高校」の実現）内定内訳書

			都道府県名	滋賀県	都道府県番号	25
設置者名	総内定額 (千円)	内事務費 (千円)	算定の対象とした事業			
			学校名	事業名	備考	
滋賀県	571,660 (0)	5,660 (0)	大津高等学校	調理室AV設備(調理室3部屋)		
			瀬田工業高等学校	工作用機器(NC切削加工機)(設置工事)一式		
			大津商業高等学校	高性能デジタルプリンタを配置した実習室(電源工事および設置工事)一式		
			彦根工業高等学校	小型マシニングセンタ		
			彦根翔西館高等学校	高性能ミシンを配置した実習室の整備		
			長浜農業高等学校	生産圃場用植物工場(設置工事)一式		
			長浜北星高等学校	マシニングセンター一式		
			八幡工業高等学校	FA実習装置		
			八幡商業高等学校	情報実習室4パソコンシステム一式		
			八日市南高等学校	堆肥循環システム一式(牛舎・豚舎)		
			湖南農業高等学校	精米調整器(色彩選別機)		
			国際情報高等学校	画像分析処理システム(設置工事)一式		
			甲南高等学校	高速液体クロマトグラフィー		
			信楽高等学校	OEL-40S台車式電気窯1基(制御装置含設置工事)一式		
			日野高等学校	高性能デジタルプリンタを配置した実習室(電源工事および設置工事)一式		
安曇川高等学校	レーザー加工実習装置(LC-M600)					

※1 事務費は内定額の内数
 ※2 カッコ内は既内定額

令和2年度「学校施設環境改善交付金」（「スマート専門高校」の実現）内定内訳書

設置者名	総内定額 (千円)	内事務費 (千円)	都道府県名	滋賀県	都道府県番号	25
			算定の対象とした事業			
			学校名	事業名	備考	
			大津高等学校	デジタルミシン(被服室、福祉室)		
			瀬田工業高等学校	数値制御実習装置(設置工事)一式		
			彦根工業高等学校	小型NC旋盤		
			長浜農業高等学校	研究用植物工場(設置工事)一式		
			長浜北星高等学校	IoT対応型デジタル制御実習システム		
			八幡工業高等学校	CNC平面研削盤(設置工事)一式		
			八日市南高等学校	自動給餌システム一式(牛舎)		
			湖南農業高等学校	非破壊糖度計		
			国際情報高等学校	高性能制御レーザー加工機(設置工事)一式		
			甲南高等学校	ガスクロマトグラフィー		
			信楽高等学校	3Dプリンターおよび制御パソコン一式×10台		
			安曇川高等学校	3Dプリンター		
			大津高等学校	IH対応調理台		
			瀬田工業高等学校	電子顕微鏡(SEM)(設置工事)一式		
			彦根工業高等学校	レーザー加工機		
			長浜農業高等学校	技術センタープレハブ冷蔵冷凍庫(更新工事)一式		
			長浜北星高等学校	自動数値制御旋盤(制御用PCはマシニングセンタと共用)		

※1 事務費は内定額の内数
 ※2 カッコ内は既内定額

令和2年度「学校施設環境改善交付金」（「スマート専門高校」の実現）内定内訳書

設置者名	総内定額 (千円)	内事務費 (千円)	都道府県名	滋賀県	都道府県番号	25
			算定の対象とした事業			
			学校名	事業名	備考	
			八幡工業高等学校	NCボブ盤(設置工事)一式		
			八日市南高等学校	自動哺乳システム一式(牛舎)		
			湖南農業高等学校	ハウス空調設備		
			彦根工業高等学校	光造形3Dプリンタ(設置工事)一式		
			国際情報高等学校	学習用レーザー切断機(設置工事)一式		
			甲南高等学校	フーリエ変換赤外分光光度計(FT-IR)		
			瀬田工業高等学校	FA実習装置(設置工事)一式		
			彦根工業高等学校	開水路試験の流量制御システム		
			長浜農業高等学校	金属検出機(設置工事)一式		
			八幡工業高等学校	CO2レーザー彫刻・切断加工機(設置工事)一式		
			八日市南高等学校	自動給餌システム一式(豚舎)		
			湖南農業高等学校	X線異物検査機		
			甲南高等学校	自動給餌システム一式(鶏舎)		
			瀬田工業高等学校	金属専用ファイバーレーザー加工機(設置工事)一式		
			長浜農業高等学校	製菓製パン設備(更新工事)一式		
			長浜北星高等学校	介護用機器/特殊浴槽・電動ストレッチャー(設置工事)一式		
			八幡工業高等学校	3Dプリンタとスキャナセット(設置工事)一式		

※1 事務費は内定額の内数
 ※2 カッコ内は既内定額

令和2年度「学校施設環境改善交付金」（「スマート専門高校」の実現）内定内訳書

			都道府県名	滋賀県	都道府県番号	25
設置者名	総内定額 (千円)	内事務費 (千円)	算定の対象とした事業			
			学校名	事業名	備考	
			八日市南高等学校	生産圃場用植物工場(設置工事)一式		
			湖南農業高等学校	真空凍結乾燥機		
			甲南高等学校	IH対応調理台		
			瀬田工業高等学校	3Dプリンター・射出成型機等の3次元造型機(設置工事)一式		
			八幡工業高等学校	CNC三次元測定機(設置工事)一式		
			八日市南高等学校	精米調整器(色彩選別機)		
			湖南農業高等学校	バイオクリーンベンチ		
			甲南高等学校	インキュベーター2台+三相電源設置工事		
			瀬田工業高等学校	ロボット・FA多目的教育システム(設置工事)一式		
			長浜農業高等学校	冷凍冷蔵ショーケース(設置工事)一式		
			八幡工業高等学校	CNC円筒研削機(設置工事)一式		
			八日市南高等学校	X線異物検査機		
			甲南高等学校	洗卵機		
			甲南高等学校	打錠機		
			瀬田工業高等学校	アクリル専用レーザー加工機(設置工事)一式		
			八幡工業高等学校	5軸制御マシニングセンタ(設置工事)一式		
			甲南高等学校	堆肥循環システム一式		

※1 事務費は内定額の内数
 ※2 カッコ内は既内定額

令和2年度「学校施設環境改善交付金」（「スマート専門高校」の実現）内定内訳書

			都道府県名	滋賀県	都道府県番号	25
設置者名	総内定額 (千円)	内事務費 (千円)	算定の対象とした事業			
			学校名	事業名	備考	
			甲南高等学校	コーティング機		
			瀬田工業高等学校	5軸加工機(設置工事)一式		
			八幡工業高等学校	ターニングセンタ(設置工事)一式		
			瀬田工業高等学校	光造形3Dプリンタ(設置工事)一式		
			瀬田工業高等学校	金属3Dプリンター(設置工事)一式		
			瀬田工業高等学校	自動計測付き旋盤		
			瀬田工業高等学校	全有機体炭素系(設置工事)一式		
			瀬田工業高等学校	コンピュータ制御精密加工機装置(設置工事)一式		
			瀬田工業高等学校	流体実験装置(設置工事)一式		
			瀬田工業高等学校	協働作業ロボット・作業補助ロボット(設置工事)一式		

※1 事務費は内定額の内数
 ※2 カッコ内は既内定額